



報道関係各位

株式会社留学ジャーナル

留学ジャーナル『留学白書2015』を発表 ～2014年の人気留学先はカナダがトップ、留学にかかる費用は二極化の傾向～

雑誌「留学ジャーナル」の発行元であり、日本最大級の留学エージェントでもある株式会社留学ジャーナル（本社：東京都新宿区信濃町34 JR 信濃町ビル、代表取締役社長：安藝 清、以下「留学ジャーナル」）ではこの度、日本人留学生および留学希望者の動向をさまざまな視点から調査・分析する『留学白書2015』を取りまとめましたので、ここに調査結果の要旨をご報告いたします。

主な調査結果の概要は下記の通りです。

＝調査結果トピックス＝

【「留学ジャーナル利用者に見る傾向」データより抜粋】

■2014年留学先のトップはカナダ。

2014年人気の留学先は、昨年アメリカと同率で1位だったカナダが、単独でのトップとなりました。2位はアメリカとなり、カナダ・アメリカの2強体制は変わらず、さらに3位以下のオーストラリア、イギリス、ニュージーランドという顔ぶれも昨年同様の結果となりました。

■高校生以下の留学検討者が4年連続で増加。

大学生は、春休みの短期留学が増加するも、夏休みは減少傾向か。

2014年の当社カウンセリングセンターでの留学相談の件数は、高校生以下の留学相談が前年と比較し124%と増加し、2010年以降、4年連続の増加となりました。

一方、大学生の相談者数も、前年と比較して約1割の増加となりました。春・夏休みに限定すると、春休みの短期留学が3割近く増加したのに対し、夏休みの出発者は若干減少する結果となりました。

【「留学意識調査アンケート結果に見る傾向」データより抜粋】

■格安か、もしくはお金をかける留学か…留学にかかる費用が二極化。

当社のカウンセリングセンターへ相談に訪れた方を対象として、留学予算について尋ねたところ、1週間の留学にかかる費用を10～20万円未満と答える回答者が約4割に上った一方、50万円以上という回答者も18.6%となりました。昨年と同調査では、10～20万円未満が約2割、50万円以上が9%だったことから、留学にかかる費用が両極化している様子が見られました。

■留学の背景には「企業のグローバル化」の影！？

社会人よりも大学生の方が「企業のグローバル化」の影響を受けている結果に。

自身の留学について、「企業のグローバル化」の影響があったかどうかを尋ねたところ、「影響があった」と回答した割合が、社会人は52.9%に対し、大学生では67.6%に上る結果となりました。これからの就職活動を控えた大学生の方が、より影響を受けている様子が見られました。

◆出版・印刷物等へデータを転載する際には、必ず「留学ジャーナル」とクレジットを入れ、下記までご一報くださいますようお願いいたします。

◆ここに掲載いたしました内容は「留学白書2015」の一部となります。『留学白書2015』の詳細をご希望の方は、下記までお問い合わせ願います。

～本件に関する報道関係者様のお問い合わせ～

株式会社 留学ジャーナル 広報担当：石澤、久保

TEL：050-3033-4122 FAX：03-5312-4469

E-mail：pr@ryugaku.co.jp URL：http://www.ryugaku.co.jp

Facebook 公式ページ「留学ジャーナル」：https://www.facebook.com/RyugakuJournal

■調査結果サマリー

①「留学ジャーナル利用者にみる傾向」データ編

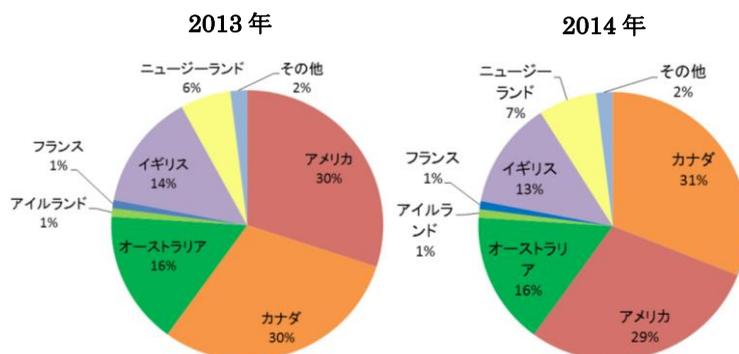
【データの概要】

2014年1月1日～12月31日の期間に、全国5カ所（東京・大阪・名古屋・福岡・岡山）にある留学ジャーナルカウンセリングセンターへ個別留学相談を目的に来室された方、ならびに留学ジャーナルを利用して渡航された方のデータとなります。

1-1. 「人気の留学先」について

■2014年留学先のトップはカナダ

2014年に留学ジャーナルを利用した留学先は、カナダがトップとなった。2位には昨年カナダと並んでトップだったアメリカが続いた。以下、オーストラリア、イギリス、ニュージーランドと続き、上位の顔ぶれは昨年とほぼ同様の結果となった。



留学ジャーナルの考察：

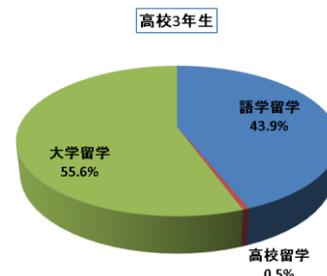
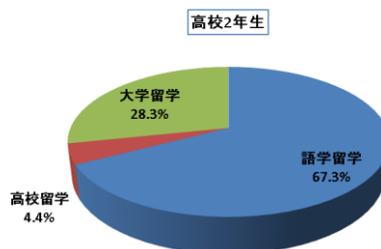
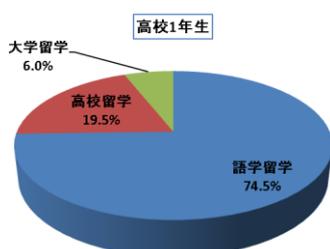
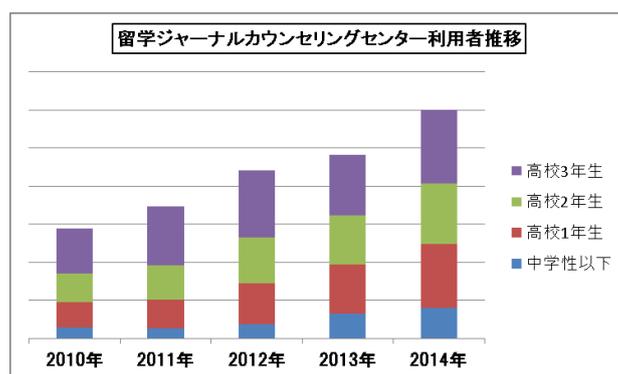
今回トップとなったカナダは、語学留学相談者の希望トップでもあります。一般的な語学留学から始まり、インターンシップや社会人向けの大学公開講座まで留学生の属性にあった幅広い受け皿を持つアメリカの人気は健在でしたが、どんな留学目的でも、良質で比較的リーズナブルに叶えられるカナダへの留学人気が高まり、アメリカを上回る結果となりました。

1-2. 「留学ジャーナル利用者数の推移<高校生以下>」について

■高校生以下の留学検討者が4年連続で増加

2014年に留学ジャーナルカウンセリングセンターを訪れた高校生までの留学相談の件数は、2013年に対して124%と増加した。

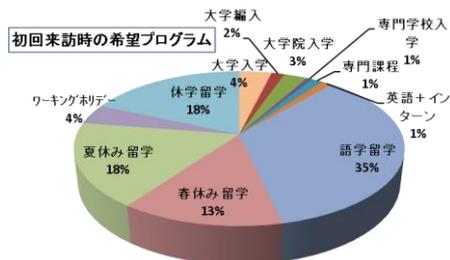
高校1年生では相談者の7割以上が語学留学で、その大半は夏休みや春休みの2～4週間の短期留学。しかし大学留学の相談も6%あった。高校2年生になると大学留学が相談の3割近くを占めるようになる一方で高校留学の相談は4%ほどに減少。語学留学は1年生同様に短期が中心だが、なかには卒業後の長期留学やワーキングホリデーの相談なども見られた。3年生になると大学留学が相談の半分以上を占めた。



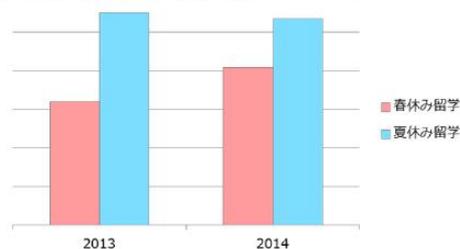
1-3. 「留学ジャーナル利用者数の推移<大学生>」について

■大学生は、春休みの短期留学が増加するも、夏休みは減少傾向か

2014年に当社留学カウンセリングセンターに個別相談を目的に来訪した大学生は前年と比較して約1割増加。春・夏休みの短期を含む語学留学を希望する学生も1割以上増えたが、春・夏休みに限定すると、春休みの短期留学が3割近く増加したのに対し、夏休みの出発者は若干減少した。



来訪時に春休み留学・夏休み留学を希望した相談者の割合
(2014年に全国の留学ジャーナルカウンセリングセンターで初めて留学相談をした大学生の相談データ)



留学ジャーナルの考察：

夏休みの留学希望者が減少した背景には、「夏休みは国内でのインターンシップがあるから留学は春休みに」ということが一因にあるようです。一般的には夏休みの方が長く留学期間を取れそうに思われますが、「夏には国内インターンシップ」というように、休暇期間そのものは夏のほうが長い反面、学校やプライベートで組み込まれる活動も夏は多くなり、春の方が制約が少ないということが挙げられるようです。

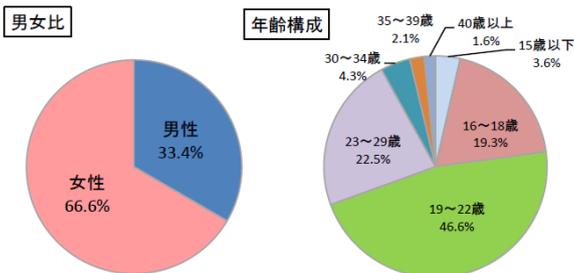
② 「留学意識調査アンケート結果にみる傾向」データ編

【調査の概要】

調査対象：全国5カ所（東京・大阪・名古屋・福岡・岡山）にある留学ジャーナルカウンセリングセンターへ個別留学相談を目的に来室された方への任意のアンケート結果

回答数：684人

対象期間：2014年10月1日～2015年1月31日

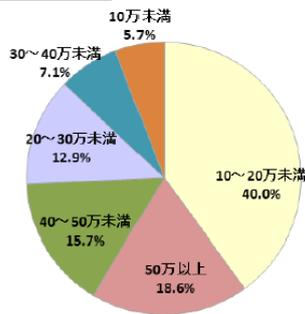


2-1. 「留学にかかる費用」について

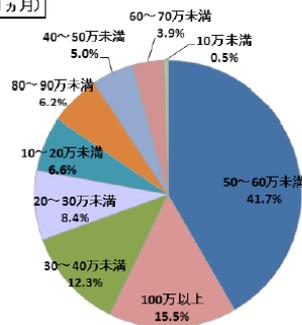
■格安か、もしくはお金をかける留学か…留学にかかる費用が二極化へ

留学予算について尋ねたところ、昨年の調査では、1週間10～20万円という回答者が約2割を占めていたが、今回の調査では4割もの回答者が1週間にかかる費用を20万円未満と答えている。さらに10万円未満という回答者も5.7%。一方で50万円以上という回答者も昨年の9%から18.6%となり、両極端な結果が見られた。

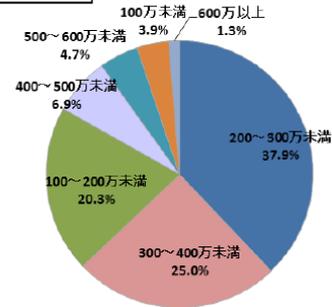
留学予算(1週間)



留学予算(1ヵ月)



留学予算(1年)



留学ジャーナルの考察：

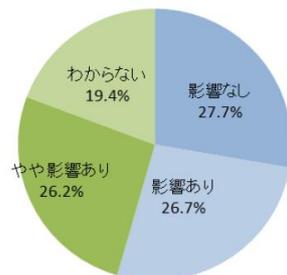
このアンケートでは、国や地域なども限定していないため、イメージしている対象が異なれば、同じ回答者でも違った回答になる可能性はあるものの、留学相談に足を運ぶ段階で想定する予算には、これだけの大きな差が出てきます。1ヵ月の留学費用でも10万未満から100万以上と大きな幅があり、1年で見ると100万未満から600万以上と、こちらもかなりの差となりますが、現実的にもワーキングホリデーで1年間留学（学校に行ける期間は限定される）しようという場合と、アイビーリーグの大学に1年間留学するのでは、このくらいの費用差は出てきます。自身の希望に応じて正しい情報を得ることが大切です。

2-2. 「企業のグローバル化の影響」について

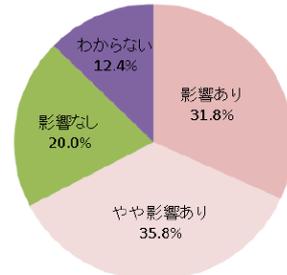
■社会人よりも大学生の方が「企業のグローバル化」の影響を受けている結果に

自身の留学について、「企業のグローバル化」の影響があったかどうかを尋ねたところ、「影響があった」と回答した割合が、社会人は52.9%、大学生では67.6%に上る結果となり、これからの就職活動を控えた大学生の方が、より影響を受けている様子が見られた。

社会人 (N=212)



大学生 (N=346)



留学ジャーナルの考察：

近年、大学内での留学促進策に、留学経験者を講師としたキャリアセミナーが開かれるようになり、大学生が留学に関心を持つ契機になっているケースが見られます。また大学生にとっては「就職活動」という、これからの展望に大きく影響を与えるステージがあることも、留学を身近に考えるきっかけとなっているようです。